

## 5月FOMCは政策据え置き、パウエルFRB議長は忍耐強く見極める姿勢を堅持

- 5月FOMCは政策金利(4.25-4.50%)の据え置きを決定
- パウエルFRB議長は景気動向を見極める姿勢を堅持
- 景気悪化とインフレ上昇リスクのバランスが重要に

## ■ 景気の底堅さと不確実性の高まりを指摘

5月6-7日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、3会合連続での政策金利の据え置きを全会一致で決定。また、バランスシートの縮小ペースも現状維持となりました。

声明文では、景気について「純輸出の変動がデータに影響したものの、足元の指標は経済の堅調な拡大継続を示唆」とした上で「経済見通しの不確実性が一段と高まっている」と記載。また、「失業増とインフレ上昇のリスクが高まったと判断」との文言が追加されました。

今回の政策据え置きは、市場の事前予想通りの内容となりました。7日の米国市場では、政策決定とその後の記者会見を受け米金利の反応は限定的だった一方、米国株は上昇、米ドルは強含む展開となり、通商政策による不確実性が高まる中でも、足元の米景気への自信を見せたことや、今後の景気動向次第では利下げを検討する可能性を残したことなどが市場に安心感を与えた印象です。

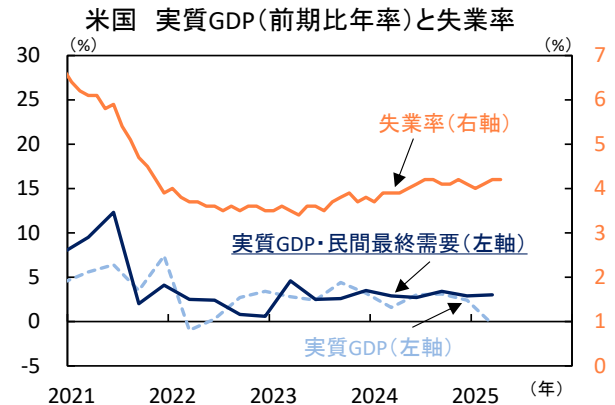
## ■ パウエルFRB議長は見極め姿勢を崩さず

パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長は、会合後の記者会見にて、関税が経済に与える影響は不確実性が高いことに加えて、失業率上昇とインフレ上昇の双方のリスクがあると改めて指摘しました。また、どちらか一方の指標のみを注視するのでは無く、リスクのバランスを考慮した上で政策を決定する方針を表明しました。

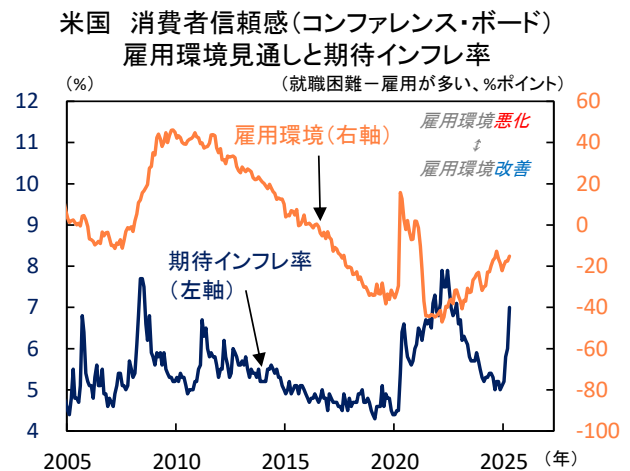
一方、足元の景気と労働市場は底堅く(図1)、注意深く観察しているが実体経済の減速を示すデータはあまり見られないと言及。また、政策変更を急がず忍耐強く待つ姿勢を再度示すなど、従来の方針を堅持した格好です。

今後は、景況感が示す雇用悪化やインフレ上昇の懸念が、どの程度実体経済に表れてくるかが焦点です(図2)。一方、関税の影響が顕在化するまでには時間を要すると見られ、経済指標の急激な悪化が見られない限り、6月会合で利下げに至る可能性は高くないとみています。当面のFRB高官の発言では、景気とインフレのどちらのリスクを懸念しているかの温度感が注視され、6月FOMCでは、四半期の景気見通しに加え、参加者のリスクバランスを示す指標にも注目が集まるでしょう(図3)。(今井)

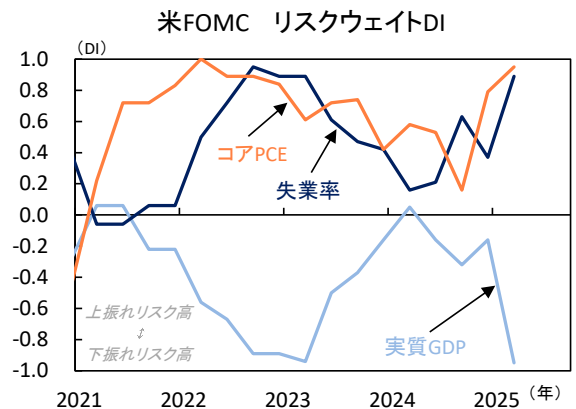
【図1】パウエルFRB議長は米景気と雇用の底堅さを指摘



【図2】雇用・物価見通しが示す懸念が具現化するかが焦点



【図3】景気とインフレのリスクバランスが重要に



## 本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント ストラテジック・リサーチ部リサーチグループの見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会